

待降節第4主日

福音朗読 マタイ 1・18-24

2022.12.18

カトリック高円寺教会

主任司祭 高木健次神父

わたしが司祭に叙階される直前の面接で、もうかなり前の話ですが、その当時の岡田大司教様とわたしの一对一の面接でしたけども、大司教様が若い頃のある教会で主任司祭だったときのお話を突然始められて、岡田大司教様って突然始められるんですよ、その繋がりが判らなくて、でもほんとは繋がってるんです。大司教様が若い頃主任司祭として行かれたその教会で、夏の教会学校のキャンプで何か大きな事故があって大変だったことがあったらしいんです。でもそのキャンプは、大司教さんが、大司教っていうか当時岡田神父様が赴任する前から計画されていたことで、そのキャンプ自体もご自分はそのなりに深く、一緒に行ったりとかしてなくて、神学生とかが取り仕切っているという、そういうような中で起きてしまったことですが、でも主任司祭だから当然その後の責任とかの矢面に立たなくちゃいけない。ほんとに大変だった、と。で、「これから司祭になるということは、自分がやったのではないことについても責任を負わなきゃいけないということが出て来ますけども——そこに繋がるんですね——あなたはそれができますか」っていう、そのご質問だったんです。

神学校生活とかで、わたしが自分は自分、人は人みたいなそういう態度が目立っていたのかもしれませんが、もちろん「はい」と言うしかなかったわけですが。司祭だったら教会のことにに関して、自分が担当する教会で自分がやったのではない、自分だったらそんなことしないのに、とそう思いながらも、でも、最終的には責任を取らなきゃいけない。だけど、たとえばお父さんお母さんだったらその子どもたちのなんかやらかしたことに一緒に謝ったりとか、あるいは、いろんなご家族で、ご両親もそうだし、家族の中にご病気の人が出れば、自分の病気じゃないけど、その看病とかお世話でいろんな自分の計画を変えて行かなきゃいけない、それを一緒にしょってかなきゃいけない、っていうことは、いろんな場面で、大切な人がいるならば経験することに違いないわけです。だから、わたしの例で言えば、ほんとに自分がやったことではない、でも責任を負うことになる。そのぐらい教会を愛することができますかっていう、そういうご質問だったかなと思います。大司教様は時々聖霊に満たされるっていう感じがあります。時々というつまり（笑）、叙階の充満だからいつも満たされるんですけど、そこからの鋭いご発言があったなって思います。

今日のヨセフだって、マリア様が聖霊によって身ごもっている。マリア様だって、実は自分の行動の結果や計画ではない神様のご計画のを受け入れることで、救い主の母になるっていう現実を引き受けているわけです。そしてヨセフもそれを一緒に担う決断しました。マリア様が身ごもっているというのは何か罪の結果ではないかと、自分だって誤解してたんだから、これからマリア様の誤解とか大変なことっていうのを、それはもう自分の問題じゃないから、とすることもできた。ヨセフにはことを荒立てないっていう優しさではありました。しかしそれだけじゃなくて、一緒に、自分の決断したことではないし自分の問題ではないと言えたかもしれないけど、でもそれを一緒に担いなさいって天使に言われて、それを受け取って行くっていう、その姿が今日の福音の中でありました。

それというのは、最終的にはイエス様の姿ですね。ご自分は罪は関係ないんだけど、でもわたしたちの罪を一緒に担われる。神はわたしたちと共におられる、インマヌエルの方と言われる方になる、あるいはインマヌエルの方である。そういうイエス様の救いの恵みをあらかじめ表わしているのが、今日のヨセフの決断であると言えると思います。

わたしたちが共にいる、あるいは自分のことじゃないけどおんなじように担うっていうことは、誰かの人生とか責任を肩代わりするっていうのとは違うんです。交通違反とかで、この前もニュースにありましたけど、自分がやった違反じゃないけど、彼氏が大好きだから自分が出頭するみたいなこと、それは全然違うんです。誰もその人が担うべき責任を肩代わりして担うことはできません。でも違反を犯したその人を大切に思うならば、その後の責任を一緒にかぶって一緒に謝り、そして一緒に担っていくっていう、その決断はあるかもしれませんね。

皆さん、それぞれの中で、自分の問題じゃないけど、でもそのことで影響を受けるっていうことを受け入れているいろんなことがあるんじゃないかなと思います。それぞれのご家庭とか人間関係の中で。でもそこにまさに、そうしよう、あるいは、そうするしかないんだ、と思った決断の中に、共におられる方、インマヌエルであるイエス様の恵みが既に働いているとうことを思い起こす必要があると思います。

そのようにして、わたしたちがそれぞれの人生を肩代わりすることはできない、でも一緒にいておんなじように担い、おんなじように影響を受けるっていう人が共にいてくれることで、また自分がそのように誰かと共にいようとすることで、出来事の意味は全く変わってくると思います。共にいることを通して一つ一つの出来事が恵みの入口になる、そのことを通して、共にいてくださる神様に会おうという恵みの入口になるんだということを思い起こしましょう。来週ご降誕を記念するイエス様ご自身の、

「神は我々と共におられる」(マタイ 1・23) インマヌエルである方の恵みが広がって
いきますように、互いのために祈り合いながらこの待降節第 4 主日のごミサをお捧げ
したいと思います。

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>